

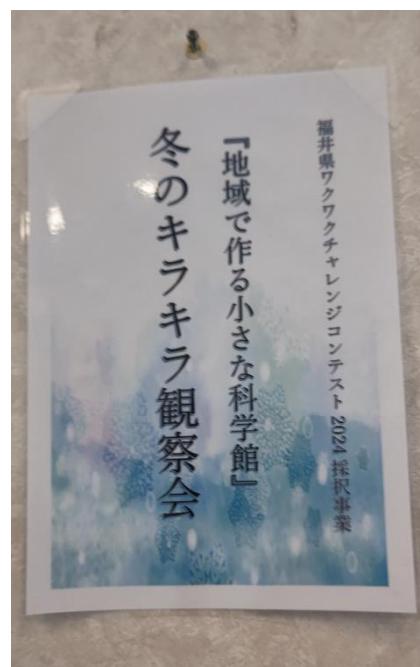
<ワクチャ事業第4回：福井市松本公民館、「冬のキラキラ観察会」：令和7年2月1日（土）、

10:00～12:00 に実施>

昨日、ワクチャ事業第4回を松本公民館にて行いました。子ども11人、保護者5人、公民館側のスタッフ3名、NPO ふくい科学学園から3名が参加し、賑やかで楽しい実験教室となりました。最初、雪の写真家のベントレーの話や、世界で初めて人工雪結晶を作った中谷宇吉郎博士、美しい雪のカラー写真撮影をした吉田六郎などについて述べ、それに関する本を回し見しました。実験は、グループに分かれ、最初、簡易ルーペ顕微鏡を使って雪のレプリカのスマホ写真を撮影しました。小さい子供たちも上手に顕微鏡写真を撮ることが出来るようになりました。期待した、ドライアイスを使ったダイヤモンドダストの実験は、残念ながら不成功でした（多分、冬の乾燥した空気では水蒸気が不足？）。その代わりに、その装置を使ってシャボン膜に雪を作る実験を見せました。最後に行ったスープポットを使った人工雪生成実験は、うまく成功し、正六角形の角板結晶が沢山でき、自然雪の写真集にあるのと同じ形であることを皆で確認しました。



最初、雪の結晶写真や、雪の研究に係わったベントレーや、中谷宇吉郎、吉田六郎について話しました



実験教室の会場入り口の看板



親子で、ベントレーについて書かれた絵本を見る



グループに分かれて、簡易ルーペ顕微鏡を使い、雪のレプリカをスマホに撮影しました



低学年の児童も、上手に簡易ルーペ顕微鏡が使えるようになりました



自分のスマホを使って顕微鏡写真が撮影できるようになりました



ドライアイスを使ってダイヤモンドダストを作る装置にシャボン膜を入れると、雪（霜）の結晶がパーンと広がっていきます



スープポットに雪と塩を混ぜて入れ、マイナス20度を作り、その上に基板を置いて人工雪を作りました、

顕微鏡で基板上に角板結晶ができているのを確認しました（自然雪の写真集にあるのと同じ形！）



実体顕微鏡で見た、基板上にできたたくさんの角板結晶